

4月は講演会を開催しました。

美術講演会 「三溪園の建築と原三溪」

講師：西 和夫氏（神奈川大学名誉教授）

日時：2013年4月20日（土）14:00～15:30

会場：横浜美術館レクチャーホール（聴講無料）

主催：横浜美術館協力会、横浜美術館、原三溪市民研究会

協力：公益財団法人三溪園保勝会、株式会社有隣堂



西和夫先生

西和夫先生は、昨年11月に有隣新書から『三溪園の建築と原三溪』を上梓されました。この講演では、三溪園に移築されてきた多くの建物のうち、臨春閣と聴秋閣を取り上げて詳しくお話くださいました。

特に臨春閣の由来について、西先生は新説を打ち出しているらしいです。三溪翁の生前には太閤秀吉の聚楽第に起源を持つ桃山御殿といわれていた臨春閣は、建築史家の藤岡通夫氏により、紀州家の別荘の巖出御殿であったとされました。その後、美術史家の鈴木広之氏により障壁画が調査され、この建物と紀州家が結びつかなくなりました。そこで登場する西先生の説が、臨春閣の前身は大阪の春日出新田の会所であったというものです。春日出新田会所と臨春閣の間取り図を比較したり、他の会所と建築様式を比較したりしながら、分かりやすく端的に解説いただきました。

質疑応答もたいへん盛り上がり、原三溪市民研究会からも数人が質問に立って、それぞれの興味あるところを直接先生に尋ねることができました。

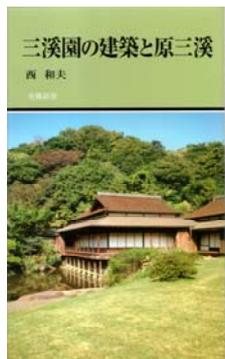
会場では有隣堂の出張コーナーで本が販売され、講演終了後には西先生のサイン会が開かれました。



横浜美術館協力会の会員をはじめ大勢が集まりました



進行役は廣島亨会長です



『三溪園の建築と原三溪』



講演終了後のサイン会では行列ができました